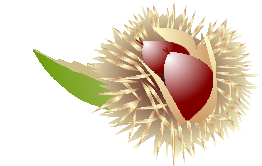




# 北東中だより

凛として 爽やかに そして前に



NO. 7

文責 仙洞田茂雄



## 心ひとつに「合唱祭」終わる



雪の南アルプス、色づく山々、澄んだ空気を感じる季節となりました。11月14日、体育館において合唱祭が行われました。今年も大勢の保護者の皆さまをお迎えする中、開催できましたこと嬉しく思います。夏が過ぎ学園祭が終わり、各クラスで自由曲を決め、合唱委員を中心に、指揮者・伴奏者・パートリーダーとともに一人ひとりが歌詞や曲を理解しようと努力してきました。時にぶつかり合いながらも、目標達成のため、心を合わせ表現の仕方を試行錯誤する長く充実した日々だったと思います。講師には昨年に引き続き、羽黒小学校教頭大久保久美先生をお迎えし、講評をいただきました。各クラスまでは掲載することができませんが、各学年の講評を掲載し、当日の様子をお伝えいたします。想いのこもった合唱をつくりあげた293名全校生徒に拍手を送りながら、今後も更に学校の良き伝統を築いていきたいと思ひます。



全校生徒による素晴らしい合唱でした 「COSMOS」

**1 学年合唱「大切なもの」** 「まずステージに立った姿が堂々として素晴らしかったです。自分たちの合唱を聴いてくださいという気持ちが伝わってきました。全体としてこの曲への思いと、言葉一つ一つをととても大切に歌っていました。ハーモニーもとてもきれいでした。1年生として素晴らしい学年合唱でした。今後は高音とさびの響きがもっと力強くつくれると良かったと思ひます。」



**2 学年合唱「瑠璃色の地球」** 「さすが2年生。厚みのあるハーモニーを聞かせてくれました。混声3部合唱は、男声が一つのパートになるので、どうしても人数の上からもバランスが難しくなると思ひますが、お互いに聴きあって、常に主旋律を引き立たせるハーモニーをつくっていただけるように工夫してください。混声4部へのチャレンジもぜひしてください。女声はきれいな発声でした。全体として一つ一つの言葉をどう伝えるかを今後勉強してください。指揮・伴奏は合唱をよくリードしていました。」

**3 学年合唱「校歌」「信じる」** 「3年間最後の合唱祭に込めた3年生の思いが心に強く伝わる素晴らしい学年合唱でした。さすがです。～校歌～北東中の生徒として、そして学校のリーダーとしての誇りと自信を感じる斉唱でした。～信じる～この仲間を信じて、これからも信じ続けて卒業までの有終の日を飾ろうという決意を感じる素晴らしい合唱でした。大拍手！指揮・伴奏もリード、支え、素晴らしかったです。」



素晴らしかった3年生学年合唱 「信じる」

学年が上がるにつれ、合唱の素晴らしさを会場の誰もが実感したのではないかと感じました。最後となる3年生の各クラスの合唱は、歌いきるんだという強い意気込みが、歌詞とともに伝わり、最上級生の誇りを感じました。そして、アンコール賞には3年3組「モルダウ」が選ばれ、きっと下級生にとってこれからの目標になったことと思います。以下保護者の皆様から頂いた当日の感想の一部を掲載させていただきます。

「限られた時間の中で、様々なクラスの事情を乗り越えて練習してきたのだと思います。それぞれ工夫がありとても良かったです。良い時間をありがとうございました。音楽っていいな、皆で歌えて幸せだなと思いました。今後ともご指導よろしくをお願いします。」「私の学生時代の合唱よりもはるかにレベルが高く驚いています。来年も見学できるのを楽しみにしています。」「各学年、学級の発表中の観賞態度がとても良かったです。」「担任の先生が発行された学級通信からも、生徒の心のゆれ、一つにまとまることの難しさを感じました。子どもたちが主体となるよう辛抱強く見守ってくださり、感謝しています。今日までのご指導ありがとうございました。家に帰って子供から話を聞くのが楽しみです。」「二葉祭から更に成長した姿を見せてもらい、胸が熱くなりました。」

保護者の皆様、平日にもかかわらず、足を運んでくださりありがとうございました。合唱祭を通して学んだ多くのことを今後の学校生活に生かし、歌声の響く学校を目指していきたいと思ひます。

	曲 名	指揮者	伴奏者
1年学年合唱	大切なもの	岩間 海月	山本 あおい
1年1組	明日の空へ	末木 杏理	山本 舞
1年2組	時を越えて	廣瀬 麻耶	小山 芽郁
1年3組	song is my soul	山本 あおい	佐野 真波
2年学年合唱	瑠璃色の地球	小林 幹治	村松 彩葉
2年1組	あさがお	小林 幹治	吉井 優花
2年2組	ヒカリ	橋本 直	工藤 安珠
2年3組	桜の下で	小田 和優斗	小宮 山映菜
3年学年合唱	北東中学校 校歌	小林 柚夢	鍋谷 咲希
	信じる	鈴木 耀太	原田 綾乃
3年1組	はじまり	小澤 佑介	小池 奏絵
3年2組	青葉の歌	森本 学	鍋谷 咲希
3年3組	モルダウ	榊原 李々華	小山 樹鈴
全校合唱	COSMOS	数野 永裕	本多 彩乃

## 学校開放日 多くの小学生 保護者来校



11月3日(木)に1日学校開放日として、授業参観を実施しました。午前中は学校開放で、地域の方や地域の小学生や保護者の方に授業を公開しました。大勢の方が来校し、感想を頂きましたので一部ですがご紹介します。



「保護者の参観が多く熱心だった。」「貴重なお話でこの時期に命や病気について深く考えるよい機会だと思う。(2年講演)」「校内の展示物(移動文学館、移動科学館)が充実していると思う。」「クラス全体でよく手が上がりいきいきと授業されていました。」「楽しそうにクラスがまとまっている様子でした。」「全体を見学させていただきどのクラスも生徒さんがよく授業に参加して良い雰囲気でした。とても挨拶が気持ちよく子供も入学が楽しみなようです。ありがとうございました。」「生徒さんたちがいきいきと授業を受けていました。手もたくさん上がり楽しそうでした。(英語)」「こちらも楽しそうに取り組んでいました。」「ラップ」もするんだなあと思いました。(音楽)」「授業に興味を持たせるよう先生の工夫が感じられました。(数学)」「生徒と先生のやり取りが活発でいきいきとして楽しそうでした。(英語)」「教室入り口が開いているクラスは参観しやすかったです。しまっているクラスは、入りにくく参観できませんでした。4校時は各学年生徒がいきいきと一生懸命取り組む姿が見られ、子供も刺激を受けた様子でした。」「どの学年もいつも静かに授業に取り組んでいて素晴らしく思います。」「2年生のようなオープンなスタイルは見学しやすかったです。」

また、午後は全クラスで授業公開をし、2年生は「命の尊さを考える授業」を行い、昨年に引き続き、山梨県立中央病院ビザパーターの清水美智子さんをお招きし、自らの体験談をお聞きました。あらためて、「命の大切さ」を考えさせられる授業でした。







# 秋の学校林活動



## 1年生92名の体験活動終わる



本校は、創立から学校林を保有し、1年生を対象に学校林活動を行っています。当日は学校林の役割が何なのか、今回お世話になった藤原林業さんから伺うことができました。「学校が木造であったころその修繕のための木材調達に役立っていた」そうです。現在は、子供たちの自然体験学習の場になっています。今年、木の伐採を行いました。昭和37年に植樹したヒノキ、檜の伐採を行いました。山の急斜面で足元が悪い中で慣れないノコギリでの伐採は大変そうでしたが、子供たちは楽しそうに生き生きと活動し自分の順番を待ちきれない様子がかがわれました。直径15cm位の太さに成長した54年前に植樹したヒノキ(50年の歳月を経た割にはちょっと細いという印象でした)を持ち帰り、切り口を紙やすりで滑らかにした後、思い思いの絵をかき「トントウ(妖精)」を製作。とても良い経験になったのではないのでしょうか。この経験から山を大事に、自然を大切にすることが生まれ育てばいいなと思います。ちょうど山の木々も紅葉が始まり



とってもすがすがしい気持ちになれた1日でした。

# 宮沢賢治の世界 移動文学館



図書館を情報発信の場として、今年度は県立文学館「宮沢賢治の世界展」を展示しました。期間中に賢治の好きな本を選び読んでいく「宮沢賢治スタンプラリーに挑戦！」(11月3日~11月25日)という図書委員会の企画で行われました。宮沢賢治の文学に触れ、その世界に入ろうと、呼びかけがあり、賢治を知る機会になるとと思います。県立文学



館との連携事業は、昨年度から通算4回目の企画展となりました。一人でも多くの生徒が作者に出会い、想いを巡らせながら、本を通して、自分なりの世界を創造することができるように期待し行っています。中学生らしい感性を広げ、本の持つ魅力に積極的にふれるよう図書館を利用してください。図書館で待っています。



# 県立科学館との連携始まる



科学の目を



今年度は初めて科学館との連携事業を行いました。現在、昨年ノーベル医学・生理学賞を受賞された、大村智先生の功績を10枚のパネルで紹介し、またイベルメクチンの分子構造の模型を展示しています。大村先生の偉業を紐解きながら、先生の科学への糸口を見つけ、考えてみたらどうでしょうか。自然



自然界の素朴な疑問や、本校生徒が県科学工

作展へ出品した作品をあわせて展示しました。何事にも興味や関心をもつこと、人や物との出会いが、自分の人生をも変えてしまうことは誰しもあることです。柔軟な頭で、創造すること、形にすること、言葉にすること・・・大切です。今後は科学館にも積極的に足を運び、科学の目を広げてほしいと思います。

大村先生の著書の中にこんな言葉がありました。「～一步一步が今日につながる～ 山梨大学で初めて微生物を扱い、微生物がすごいと思った。その感動があって、北里研究所では今まで勉強してきた化学と微生物の力を組み合わせれば、世の中の役にたつことができそうだと感じた。」「新しいことに挑戦して、新しいことをすれば必ず失敗するが、その失敗は必ず将来の宝になる」





# 災害は忘れた頃に・・・命を守る



東日本大震災、山梨県の豪雪、関東・東北豪雨災害、熊本地震等、地球規模で起こっている異常気象は、これまで経験したことのない災害を引き起こし、尊い命が失われています。これからの時代を生きる私達にとって、どこで、いつ、どんな災害に遭遇するのか誰にも予想できません。「災害は忘れた頃にやってくる」災害への備えをしっかりと行いましょう。本校では、1学期に「**地震災害への備えと対応**」を全家庭に配布しましたが、今一度ご家庭でも、災害時の備えについて確認してほしいと思います。



「甲府市防災情報WEB」

以前にも紹介した甲府市HPの「防災情報WEB」は大変参考になります。ご家庭でも視聴していただき、学校でも更に防災意識を高めていきたいと思ひます。

特に、東海地震は、本県において最重要課題であると言えます。私達は、「今は大丈夫、ここではありえない」など、心のどこかで思いがちです。いつでもどこでも起こりうる自然災害への対応、そのために通常の訓練も必要ですが、一人ひとりが様々なシミュレーションを想起した「自己訓練」も必要です。防災意識を変え、「命を守る」行動がとれるよう、日々の生活の中でも、災害への備えに取り組んでいきましょう。



## 「できること」



甲府市中学生交通安全・防犯弁論大会出場 2年 堀内晶貴

私の兄は自転車盗難被害にあったことがあります。兄はもちろん、家族もとてもいやな思いをしました。その体験を通して、私は、生活に根差した防犯意識をもつことが大切だと考えるようになりました。

盗難にあったのは兄が高校1年の夏、駅の駐輪場でした。兄の中学入学の祝いに両親から送られた白いマウンテンバイクです。たまたま、その日はかぎをかけていませんでした。家に忘れてきたのです。ショックを受けた兄はあちらこちら探し歩きました。駅周辺、図書館、コンビニなど自転車のおいであるところを一生懸命探したのです。両親にも厳しく注意され、反省しているのが僕にもわかりました。そして兄は反省とともに犯人への激しい憤りを持っていました。「鍵をかけていなかったことは確かに良くない。しかし鍵をかけない自転車を盗むという犯罪とモラルの低さが許せない」と怒っていました。しかしそんなことばかり言っているだけでは、自転車が戻ってくるわけではないし、犯人が捕まるわけでもありません。やるべきことは自分自身の防犯意識をたかめることです。このことをきっかけに、家族で防犯意識の欠如や、生活のなかでの大事な物や時間の管理について考えました。盗難当時、兄は高校1年で自転車と電車で通学。勉強や模試、ゼミ通いに部活動と、多忙な日々でした。朝はいつも時間ぎりぎりで、机の周りやぎゅうぎゅう詰めリュックサックから、自転車の鍵を探しだしバタバタと出かけていく。毎朝の光景でした。そんな中で起きた自転車盗難事件。当然のように改善点がわかります。自転車の鍵は定位置に、時には鍵の機能の点検も必要でしょう。そして時間に余裕を持つことも大事です。そこで僕たち家族は、前日の夜には出発時間や行先、帰宅時間などを共有し、声掛けをする。30分早く起きる。鍵の置き場所を設定するなど、家族で協力して改善しました。

さて、兄の自転車は約1年後、駅向こうの墓地で見つかりました。タイヤは歪み、サドルはずれ、塗装ははげ、さびだらけの変わり果てた姿でした。母は、気味が悪いから新しいものにすれば…といましたが、僕たちは反省と悔しさから自分たちで修理し、一生懸命さびをとりよみがえらせました。今は僕の愛車です。手入れをして、必ず鍵をかけて大切に使っています。

このような経験から、身の回りを整え規則正しい生活をする、正確な時間の管理、これらの習慣の定着と向上が、防犯意識をたかめる一助になることは間違いないとぼくは考えます。

※ 紙面の関係上、途中略させていただきました

防災・防犯意識を高め、地域の安全安心な町づくりに全校生徒で取り組んでいこう

## 今後の予定

- 1 1月28日～29日 期末テスト
- 1 2月 6日 到達度テスト
- 9日 生徒会役員選挙
- 10日～11日 三層楼を磨こう
- 19日～22日 三者懇談
- 26日 終業式



市内連合音楽会 吹奏楽部

